

三保漂着端脚目クラゲノミ亜目

マルオウスムラサキウミノミ

Anchylomera blossevillei H. Milne Edwards, 1830

横山謙二

2025年3月22日午前8時ごろの三保真崎海岸漂着物調査で *Anchylomera blossevillei* H. Milne Edwards, 1830 マルオウスムラサキウミノミをのオスとメスの2個体採集しました。本種は、会報91号p14で紹介したツノウミノミと同科のマルオウミノミ科に属します。ツノウミノミと同様に第5胸肢に擬鉗 (subchela) をもちますが、ツノウミノミが第3～6胸肢まで擬鉗があるのに対し、本種は第6には擬鉗を持ちません。第5～7胸肢の基節 (第2節) の幅が広く、特に第5胸肢は肥大化するので、体の側面から見ると他の胸肢が隠されてしまい、一見胸肢が2本しかないように見えます。またツノウミノミのように吻はなく、丸い頭をしています。体長は6～8mmほどで、ツノウミノミより小さく感じます。

本種は、世界中の海洋の熱帯、亜熱帯、温帯海域に広く分布し、しばしば表層付近で局所的な群れを形成します (Vinogradov et al., 1996)。日本でも、相模湾で採集記録があります (森ほか, 2010)。



マルオウスムラサキウミノミ♀(左)、♂(右) 2025年3月22日午前8時